2021年度 学生災害ボランティア・ネットワーク事業
大学コンソーシアムひょうご神戸
学生ボランティア広報紙

ぷぷぷ

Gaku-Vol mag

2021 Vol.05

2022年３月発行
■編集／
大学コンソーシアムひょうご神戸
2021年度学生災害ボランティア・ネットワーク事業
■発行／
神戸市社会福祉協議会
日本財団ボランティアセンター
大学コンソーシアムひょうご神戸
■デザイン／
イワサキ出版印刷有限会社

若者にしかない力を伝えたい＝学生ボランティア

KUMAMOTO

出来ない状況の中で
「どうやったら出来るのか」
タイムラインの大切さと災害ストレスに対する
心のケアについて

MIYAGI

終わりなき
復興支援
災害を風化させない
もう一度見つめる

HYOGO

人吉にいつか伺いたいです！！
思い出はよみがえる
閖上とひょうごを
つなぐ「灯りのみち」となって
これからも続いていく
と期待しています
私たちにできる災害復興支援
心の復興
の難しさ
何かをしたい！知りたい！
ありがとう、
またお越しくださいね

NAGANO

「へー！これ神戸とつながってるの？」
これからの災害に
繋げていく
「自分は大丈夫と思っていませんか？」

OKAYAMA

被災者・未災者を
様々な世代を越えて
温かい風を運んでくれて
災害を他人事としない
ありがとうございました
これで終わりにせず、
ずっと交流できたらいいですね！
私たちにできること
今後もあの体験を
多くの方々に伝えることで、
お役に立てるのであれば、

これまでも、これからも…

もくじ

2・3 学ボラの概要・研修の流れ
4 宮城県名取市閖上・兵庫県三木市での活動
5 長野県長野市長沼・豊野地区・兵庫県神戸市長田地区での活動
6 岡山県小田郡矢掛町・倉敷市真備町での活動
7 熊本県人吉市での活動
8 学ボラ Q&A コーナー
9 留学生リアルスコープ
ボランティアしませんか
おすすめ！ Spot & Food

学ボラ

学生災害ボランティア・ネットワーク事業 2021

私たちの学生災害ボランティア・ネットワーク事業は「つたえる・つながる・つづける」の「３つの“つ”」をコンセプトに活動してきました。
今年度も昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症に翻弄される日々ではありましたが、だからこそ「学生である自分達には今、何ができるのか？」を被災地域の関係者の声を聞き、「３つの“つ”」を意識して考え、ボランティア活動を実践しました。そして、この経験を通して、今後の人生の糧となる多くの気づきを得ることができました。

事業コンセプト 3つのつ

- つたえる…災害の経験と教訓を、現地の現状を
- つながる…現地の住民、学生と
- つづける…現地での活動をこれからも

～これからも、この活動に参加する学生たちによって受け継がれていきます～

オリエンテーション・第１回研修会

日時：2021年７月４日（日）13：30～17：00
場所：兵庫国際交流会館　３階　多目的ホール
研修テーマ：『教えて先輩！私×ボランティア×防災』どうやって自分の思いを実現？
研修のねらい：自身のボランティアに対するおもいを実現する方法を知り、活動後にありたい自分の姿を考える。自分にとって今回のボランティア活動に参加する意味を考える。
研修内容：
1. オリエンテーションとスタッフ紹介
   （1）主催者挨拶
   大学コンソーシアムひょうご神戸　学生交流委員会　委員長代理
   神戸親和女子大学　地域連携センター長　大島　剛
   （2）スタッフ紹介・参加者自己紹介
   2021年度学生スタッフ　茶谷　まりん・森本　彩乃
   （3）学生災害ボランティア・ネットワーク事業について
   大学コンソーシアムひょうご神戸　学生交流委員会　ボランティア事業事務局
   甲南大学　地域連携センター事務室　課長　松下　賢一
2. 第１回研修会
   （1）「アーティストとしてできること～防災をカルチャーに～」
   講師：神戸発・防災ユニット「Bloom Works」（Kazz・石田　裕之）
   （2）今後の活動に向けて
   大学コンソーシアムひょうご神戸　学生交流委員会
   神戸親和女子大学　教授　大島　剛
   神戸女子大学　教授　大西　雅裕

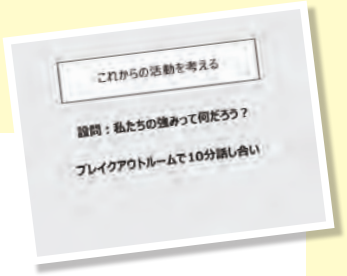
第２回研修会

日時：2021年７月11日（日）13：00～17：00
場所：兵庫国際交流会館　３階　多目的ホール
研修テーマ：お互いを知り、活動現場を知る。
研修のねらい：お互いの人となりや考えを知り、チームづくりのきっかけとする。
現地活動のイメージを持つ。
研修内容：
講師：日本財団ボランティアセンター　宮腰　義仁
1. チェックイン　グループワークのち全体ワーク
2. 第一回研修会の振り返り
3. 災害ボランティアについて（緊急・復旧・復興）
4. これからのスケジュールの確認
5. 自分のこれまでとこれからを語る、仲間のこれまでとこれからを聴く
6. グループでのコミュニケーションツールの紹介
7. チェックアウト　グループワークのち全体ワーク
「この研修会で、学生は何を学び、何を感じたのか？」

第３回研修会

日時：2021年8月8日（日）13：00～17：00
場所：こうべ市民福祉交流センター
研修テーマ：ボランティアってなんだろう？＆“思い出を守る“被災地支援活動を体験しよう！
研修のねらい：ボランティアとしての心構えや視点に関する学びを通じて、参加する学生たちが本事業における自らのスタンスを認識し、今後の活動でそれらを意識しながら取り組んでいけるよう後押しする。写真洗浄の体験を通じて、遠隔地でも取り組める災害地支援活動の実例を知る。また、参加者たちと年代の近いおたがいさまプロジェクトメンバーとの話を通して、被災者に寄り添うことの大切さや活動に込める思いに触れることで、ボランティアとしての自らのありようを考える機会とする。
研修内容：
1. 西日本豪雨の災害時のお話し〔井上　望さん〕
2. ボランティアについて考える（座学）
   講師：神戸市社会福祉協議会　広報交流担当課長　藤崎　圭多朗
3. 写真洗浄活動の紹介と体験（おたがいさまプロジェクト）
4. 先輩ボランティアを交えてグループワーク
5. 講評
   講師：神戸親和女子大学　大島　剛

第５回研修会



日時：2021年9月5日（日）14：00～17：00
場所：ZOOMによるオンライン
研修テーマ：私たちが大切にしたいこと
研修のねらい：後半のチーム活動をより良いものとするため、これまでの研修を振り返り、これからの活動の目的を考える。
研修内容：
1. これまでの研修会の振り返り
2. ボランティア活動の心構え
   講師：神戸常盤大学　ボランティアセンター　コーディネーター　戸谷　富江
   2021年度学生スタッフ　茶谷　まりん・森本　彩乃
3. チームミーティング

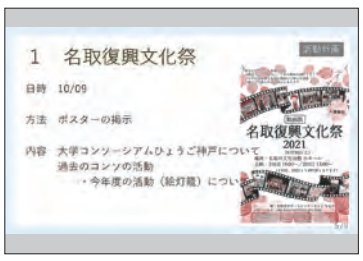
第４回研修会

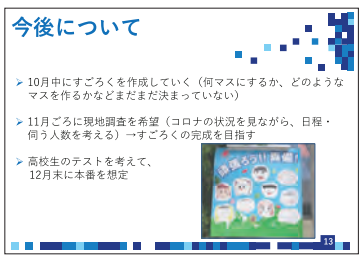
日時：2021年8月15日（日）14：00～17：00
場所：ZOOMによるオンライン
研修テーマ：（学び）阪神・淡路大震災を学ぶ
（実践）マイ・タイムラインをつかって、実際の災害時の想定した活動を行う
（問い）今日の学びと実践から、自身の「ボランティア活動」に対する問いを探す
研修のねらい：現地活動を行う際の立ち位置のベースとなる、「阪神淡路大震災があった神戸の学生」という意識を持つ。
「ひょうご災害・防災リーダー」になるという自覚をもつ。
実際の災害時の活動シミュレーションを経て、これから行うボランティア活動について深く考えることで、自分の中に「ボランティア、防災」を落とし込む。
研修内容：
1. ヒアリング報告会
2. 「被災した方への寄り添いとは…」
   講師：神戸親和女子大学　大島　剛
3. チームミーティング
   「この研修で、学生は何を学び、何を感じたか？」

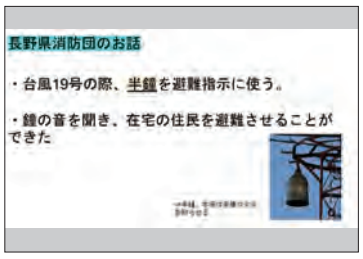
5. 歴史における阪神・淡路大震災

第６回研修会

日時：2021年9月12日（日）14：00～17：00
場所：ZOOMによるオンライン
研修内容：
1. 活動計画についてのプレゼンテーション
2. 今後の現地活動に向けての心構え
   講師：神戸女子大学　教授　大西　雅裕
3. チームミーティング







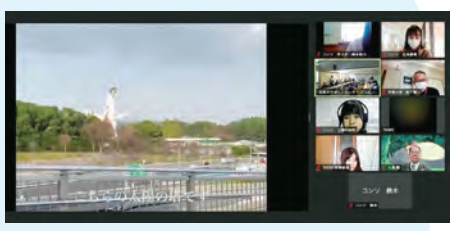
宮城チーム活動報告

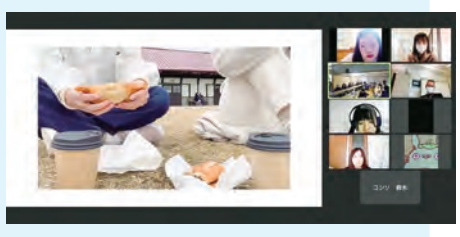
名取復興文化祭

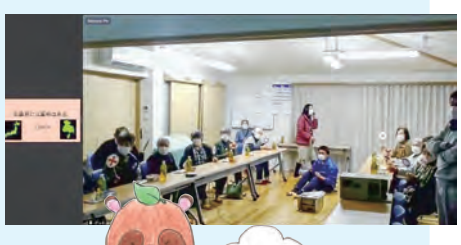
10月９日に行われた名取復興文化祭で大学コンソーシアムひょうご神戸の宮城チームに関するポスター掲示をさせていただきました。そこには、私たちの紹介とこれからの活動内容、私たちの想いなどについて書きました。そのポスター掲示で閖上の方に私たちについて知ってもらうきっかけづくりになりました。

茶話会

閖上の方々と仲良くなるために、毎週行われている閖上地域の交流会の茶話会に参加させていただきました。宮城にある尚絅学院大学のボランティアチーム TASKI の方々にも協力していただき、オンラインで茶話会に参加できました。閖上の方々からのご希望もあり、私たちの地元のオススメや魅力を動画に撮り、旅行気分を味わってもらうバーチャルトラベルを実行いたしました。その中で地元のお菓子を配ったりしてさらに旅行気分を味わっていただきました。そして、TASKI の皆さんにも協力していただき、宮城のおすすめが詰まった動画も見せていただきました。動画をきっかけにお互いの地元の話が広がり、お菓子でさらに気分が上がるいい交流の場となりました。







震災について

2011 年３月 11 日午後 14 時 46 分、国内最大規模の大震災が東北を襲いました。最大震度７の巨大地震とともに高さ９mにも及ぶ予想をはるかに上回る規模の津波も襲ってきました。死者・行方不明者は２万人を超えています。被災地の方々は津波で大切な人とともに大切なふるさとをもなくし、今でも苦しむ方が大勢いらっしゃいます。

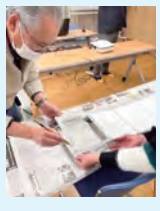
およそ 5500 人が暮らしていた宮城県名取市では人口のおよそ５分の１にあたる 1000 人ほどの人が亡くなりました。その中でも海に近かった閖上地区で亡くなった人は 700 人にも及びます。災害から８年経った 2019 年に街開きが行われたり、家を再建して故郷に戻ったりする人々も増えています。しかし、中には無くした故郷を見るのはつらいと閖上に戻れない方も大勢いらっしゃいます。震災から 10 年経った今、それぞれの被災地でそれぞれの課題を抱えています。本当の復興とは何なのでしょうか？私たちにできることは何でしょうか？

三木緑が丘アフタースクールの子どもたちと

三木緑が丘アフタースクールの小学校３年生～６年生の子どもたちと一緒に絵灯籠で使用する絵を描きました。はじめに、閖上中央町内会会長の長沼さんから震災当時の状況についてお話してもらいました。長沼さんから「宮城と言ったら何が思い浮かぶ？」と聞かれ、子どもたちは照れながらも「気仙沼？」「津波？」「ずんだ餅？」などと答え、クイズなども楽しんで現地の方と交流していました。それから子どもたちの想いなどを絵で表現してもらいました。子どもたちは「どんな絵にしよう？」と悩みながらもそれぞれの想いのこもった絵を描いていました。

絵灯籠作成

子どもたちが描いた絵と私たちが描いた絵を現地に送り、オンラインでつないで一緒に絵灯籠の組み立てを行いました。それぞれの想いが込められた絵灯籠。笑いの絶えない暖かい交流の場ともなりました。これは３月に TASKI の皆さんの絵も合わせてみんなの想いが合わさった絵灯籠が追悼式で灯されます。どうかこの想いが被災された方々に届き、復興の輪が永久に続きますように…



宮城クイズ

名取市閖上にある日和山はある有名な映画の原点となっていると言われています。それは何でしょう？

① 千と千尋の神隠し　② 君の名は
③ 天気の子

正解：②
映画監督の新海誠さんが東日本大震災の後に名取市閖上を訪れ、「あの日ここにいた世界は充分にありえた。もしも自分があなただったらという入れ替わりの作品を作ろう」と考えたそうです。監督はそれから日和山のスケッチを書き、映画が制作されたエピソードがあります。

現地関係者からのコメント

この神戸の学生と東北（閖上）の繋がりは長く続けて貰いたいです。そして、阪神淡路大震災もそうですが、被災者の心の復興には終わりが無いと言うことを是非伝えていって貰いたいです。

閖上中央町内会会長　長沼 俊幸さん

今年度活動の「オンラインツアー」は、コロナ禍で人とつながることが難しい中、離れていても楽しみを届け、交流を深めることが実現できたと思います。
震災そしてパンデミックと私たちに立ちはだかる壁は高いですが、できないことよりもできることに目を向け、継続的に活動できたことは、閖上とひょうごをつなぐ「灯りのみち」となってこれからも続いていくと期待しています。

名取市サポートセンターどっと . なとり　総括　菊地 麻理子さん

コンソーシアム神戸の学生さんとは、毎年関わらせて貰っています。コロナ流行により、オンラインとなりましたが、交流は続いています。今年度のお茶会では、オンラインということで難しい点が多い中、閖上の住民さんと完璧にコミュニケーションを取られていました。そのおかげで、非常に楽しい会となりました。

尚絅学院大学ボランティアチーム TASKI 一同さん

活動で感じたこと、感想

ここまで自分たちが主体となって活動するボランティアは初めてでどうしたらいいのか分からないことだらけでしたが、みんなと助け合いながら無事に終えられました。ありがとうございました。また、活動にあたってどっと．なとり菊地さんや長沼さんにも大変お世話になりました。ありがとうございました。

神戸学院大学　２回生　延原 克駿

長野県での活動

台風 19 号について

2019 年 10 月 13 日に日本に台風 19 号が上陸し、大雨を降らせ、千曲川の堤防が決壊し、千曲川流域の広範囲に多くの被害をもたらしました。約 1000 世帯が被害を受け、長沼と豊野の多くの住民が地域の外に避難し、長野市内のアパートなどが仮設住宅となり、地域の全員がバラバラになってしまいました。被災後すぐに災害ボランティアの「災害 NGO 結」の前原土武さんが駆け付け、約５日後からボランティア活動が始まり計８万人もの参加がありました。災害から２年がたち、再建が難しくなり地元へ帰ってくることが困難となりました。地域の人々が減り、地域の元気の減少や少ない人数での復旧になることで心身ともに負担が大きくなっています。

チームミーティング

長野県社会福祉協議会の山崎さんからの災害についてのお話や今の現地のニーズをお聞きしました。災害から２年が経ち、復旧ではなく復興を目指している現状で私たちに何が出来るのか、とても悩み何度もミーティングを重ねました。家が決壊したり、仮設住宅での生活で地域の人達がバラバラになってしまったり、元の町に戻るのに人がいないという声に現地の人の心の支え、心の支援を行いたいと考えました。そして、長野県の災害を忘れてほしくないという思いから若者にできる発信力を生かし、全国へ広めようと決まりました。

防災学習

12 月９日に神戸常盤大学子育て総合支援施設内学習支援センター「てらこや」において、防災学習を行いました。長野県社会福祉協議会の山﨑博之さん、NGO 結の中路花子さんのご協力によって、その当時長野市消防団長沼分団長であった飯島基弘さんからお話を聞く機会を設けていただき、当時の状況を聞かせていただきました。その内容をもとに、神戸に住む子どもたちに向けて長野県であった台風被害の実情と災害に対する防災の意識をもつ大切さを伝えました。「長野県の災害の経験を防災に活かすために、神戸の子どもたちに災害学習を行う」という目的で、災害のピクトグラムを使ったクイズや長野県の災害や、マイタイムラインの大切さをパワーポイントで伝えること、避難時に持っていくものを個人・グループで考えてみようというゲームを行いました。

ぬくぬく亭交流会

12 月から１月にかけての４日間で、長野県長野市豊野地区にある「まちの縁側ぬくぬく亭」とオンラインでの交流会を行いました。ぬくぬく亭によって居場所ができ、心の病に向き合うことができたというお話など自分たちが人生の中で学ぶべきことや、人との繋がりによってコミュニケーションをとる大切さをお話しいただきました。ぬくぬく亭に来られる地域の方々が、安心してお話ができる場を作り、交流することで「コロナ禍でボランティアの数が減ってしまい、長野で被災された人々の喪失感や不安を取り除くために、住民の方と交流をする」という目的で活動することができました。

現地活動

１月６日から１月７日にかけて現地を訪問し、消防団の方と講演会の打ち合わせ、ぬくぬく亭を訪れ、交流会を行いました。長沼にいらっしゃる飯島さんと高見澤さんのもとを訪れ、決壊した時の様子や、消防団としての活動を身振り手振り教えてくださいました。当日の流れがスムーズに進むように、新しい資料を用意してくださり、コミュニティタイムラインについて詳しく教えていただきながら、打ち合わせを進めました。１月７日はぬくぬく亭を訪れ、「昔の遊びつなぎ帯・遊び隊」というボランティア団体との交流を組んでいただき、お手玉、おはじき、ブンブンごま、歌詞かるた、などの遊びを紹介していただきました。当時の状況を丁寧に分かりやすく写真を見せながら説明していただき、伝わることが言葉だけでなく、その方の思いも感じることができました。現地で会うことでしか得られない、人と人との関係性、繋がりを感じることができ、良い経験となりました。

講演会

１月 15 日に長野市消防団長沼分団の方と東京大学大学院の松尾一郎先生を講師に招き、防災・減災講演会「自分は大丈夫と思っていませんか？」長野市 (長沼) 消防団の方と見直そう！を実施しました。様々な出身地の 51 名の方から申し込みしていただき、39 名の方の参加がありました。飯島さんは長沼地区が昔から地盤がゆるく沼地のため、水害被害の経験があったということをもとに、台風 19 号の被災を消防団としての活動を通してお話してくださり高見澤さんは被災当時の反省点を踏まえて、長沼地区の最新ルールブックの紹介をしてくださいました。松尾先生はタイムラインの大切さと災害ストレスに対する心のケアについてお話してくださいました。長野県での災害の経験を全国の人々の防災に繋げられるように講演会を通して、防災･減災の取り組みについて伝えることが達成できたのではないかと思います。

現地関係者からのコメント

この様な経験をさせていただき、緊張しましたが、貴重な経験と、皆さんに感謝しております。今回の講演が少しでも、皆様のお役になればと、祈っております。この経験で一人でも多くの方が、災害から、逃れていただければと、心から祈っております。今後もあの体験を多くの方達に伝えることで、お役にたてるのであれば、助けていただいた、ご恩返しになるのかと、思っております。ご参加していただいた皆様の今後のご活躍を、心よりお祈りし、社会に羽ばたいて、いただけたらと、思います。

長野市消防団長沼分団分団長　高見澤 昇さん

神戸から保育士を目指す孫 (のような) 娘３人が、先生お二人の引率でぬくぬく亭へ。迎えた「昔の遊びで (世代と文化を) つなぎ帯･遊び隊」がオハジキ、お手玉、ブンブンゴマなどを披露すると、孫娘達も挑戦して楽しく大盛り上がり。昔の遊びを伝え、孫娘達に元気をもらえた2時間だった。ありがとう、またお越し下さいね。

とよの福向チーム集落元快　清水 厚子さん

「へー！これ神戸とつながってるの？」初めてオンラインを使って話をしたおばあちゃん達。いざ始まると話が止まらない（笑)。実際にぬくぬく亭に会いに来てくれてさらに親近感が湧きました。「災害で一時は元気がなかったけど今は頑張ってるよ。」いろんな人に応援してもらい元気になりました。これで終わりにせず、ずっと交流できたらいいですね！本当にありがとうございました。

豊野地区住民自治協議会　北澤 咲子さん

台風災害がきっかけで誕生したまちの縁側ぬくぬく亭。その後、住民が寄り集まる温かい雰囲気の地域の居場所へと発展していきました。神戸の学生とのつながりも災害がきっかけですが、今回の直接ふれあえる機会に住民の皆さんの自然に溢れ出る笑顔が印象的でした。温かい空間に温かい風を運んでくれてありがとうございました。

長野県社会福祉協議会　山﨑 博之さん

活動で感じたこと、感想

約１年間活動をして、コロナ禍で対面での会議もほとんどできず毎回何時間もかけて話し合いをしてきました。現地の方とのヒアリングを行い、初めは私たちにできることが見つからず、難しく感じる時もありましたが、チームのメンバーそれぞれの特色や若者らしさを活かしてたくさんの活動を行い、様々な経験ができたと思います。たくさんの経験と人との出会いにとても感謝しています。

頌栄短期大学　2回生　外種子田 千寛

長野クイズ

台風 19 号の被災時ボランティアが沢山訪れ、感謝の言葉が増えたことで希望が見えてきたとお話にありましたが、その訪れたボランティアの人数は何人ぐらいでしょう？

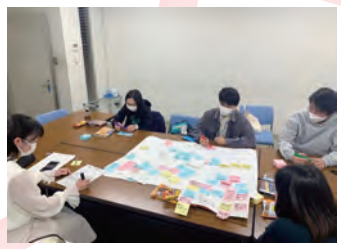
① 6,000 人　② 25,000 人
③ 38,000 人

正解：③
多く訪れたことにより車を停める場所に困ったりとトラブルは起きましたが、オリンピックスタジオを駐車場としたり、サテライトセンターを作ったり、そこからマイクロバスや大型バスで現地へ向かうなどして対応を行ったそうです。

岡山県倉敷市真備町での活動

真備災害すごろく作成

私たちが活動を行なった岡山では今から３年前、戦後最大級とも言われる西日本豪雨が起こりました。その真備町で被災された方々にヒアリングを行ったところ、町の外観こそ戻りつつあるけれど、被害を受けた方とそうでない方との間では災害に対する気持ちに違いがあったり、まだ心の傷が癒えていない方もいらっしゃることがわかりました。そこで、私たちは被災経験のある方には当時のことを言葉にするきっかけを、被災未経験の方には当時のことを知り、災害について考える機会があればよいのではないかと考えました。交流の場が重苦しい雰囲気ではなく、気軽に交流できるようにするため、まずは災害すごろくを被災地の方々と作成し、一緒に遊ぶという方法を考えました。すごろくを通して被災された方もそうでない方も災害と向き合って、お互いがゆっくりと話しながら交流することを目的に、そして、すごろく作成の完成をゴールとするのではなく、私たちの活動終了後もそのすごろくを通して災害を風化させないことに繋げようと話し合いました。



西日本豪雨について

2018年６月28日から７月８日にかけて西日本を中心に台風７号および梅雨前線等の影響による集中豪雨が続きました。西日本を襲った豪雨は洪水や崖崩れを引き起こし、200人以上が死亡、数十人が行方不明という36年ぶりの大災害となりました。中でも倉敷市真備町は最も被害が大きく、市全体の死者数51人のほとんどを占めています。災害から３年経った今、被災地の現状をお聞きし、心の復興を目標に私たちにできることを模索しました。

矢掛高校

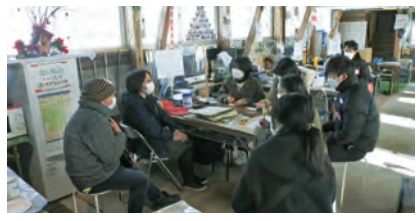
私たちは真備災害すごろくのマスを一緒に考える「交流会」を行いました。岡山県立矢掛高校に通う高校１年生５名と卒業生１名にご協力いただき、被災当時の話をお聞きしました。現在、高校１年生の彼らは被災した当時は中学生で災害が起きたときのことを細かく、少しずつ思い出しながら話してくれました。子ども目線で感じた災害の恐ろしさや被災後の学校生活でのことなど沢山のことを教えてくれました。また、この計６名の中には被災経験者と被災未経験者が参加しており、被災は経験していないけれど友達が被災していたときの話や西日本豪雨のボランティアとしてお手伝いをしていたときの話なども知ることができました。最後に感想を尋ねると、「最近は家族とも友達とも西日本豪雨の話をすることがなかった。今回お話をする機会をいただけてとても良かった。」と実際に耳にして災害の風化を感じました。

真備災害すごろくを一緒にやろう！

残念ながらコロナウイルスの影響で現地には伺えませんでしたが１月22日にオンラインで開催することができました。今回は岡山県立矢掛高校の学生５名（すごろく茶話会に参加してくれた学生も数名含む）と教員１名にご協力をいただきました。被災経験者、被災未経験者関係なく、西日本豪雨について考えたり、クイズに答えたり、もし災害にあったら…とシミュレーションしたり、私たち神戸の大学生と現地の様々な方と一緒に作成した真備災害すごろくを通して話し合いました。すごろくが終わった後、現地の高校生も私たち大学生もみんなが「すごく楽しかった！」と思える活動にすることができ、達成感を感じました。この活動後は株式会社ロータリービジネスさんにご協力いただき、よりすごろくを見やすく、デザインなどの相談をさせていただきながら作成を進めました。
今後、真備の方々に真備災害すごろくを通して西日本豪雨について話し合うきっかけになれば、と思います。

真備写真洗浄

真備町写真洗浄の皆様にご協力いただき、被災当時の様子やボランティアの様子を伺うことができました。災害発生当時から現在に至るまで、現地で活動なさっている真備町写真洗浄さんがどんな思いでボランティアを続けておられるのかを学ばせていただきました。また活動に同行させていただき、被災地域の方からお話を伺いました。想像していなかった災害についてのリアルなお声を聴き、すごろくをより学びの多いものにすることができました。他にも、真備町内を案内していただきながら災害当時の様子をお聞きしました。直接お話を伺うことができたからこそ、災害について語る場の空気を感じ、心の復興の難しさなど災害に伴う様々な問題を見つめ直すきっかけになりました。



岡山クイズ

西日本豪雨が発生した当時、真備町の４分の１以上が浸水被害に遭いました。その浸水の深さは最大で何メートルだったでしょう？

① １．２メートル（蚊取り線香の長さ）
② ３メートル（バスケットゴールの高さ）
③ ５．４メートル（消防車の全長）

正解：③

現地関係者からのコメント

昨年度に引き続き活動に参加させていただきました。西日本豪雨災害から３年。最近では高校生の中でも日常を取り戻しつつある中で、忘れられていくことにどう向き合うかが課題です。今回の「真備災害すごろく」の取組はそこに大きなヒントを与えていただきました。被災者・未災者を超え、様々な世代を超えて一緒に「すごろく」を行うことで、災害や防災についての広くて深い語り合いが生まれます。今後の防災教育の場面でもうまく活用していくことができそう。神戸の学生のみなさんや社協の皆様が現場にしっかり目を向けられ、丁寧な準備をしてくださったことで生み出された、あたたかい作品（取組）だと感じました。ありがとうございました。

岡山県立矢掛高等学校教諭　高木 潤先生

私たちからのヒアリングを経て「被災から３年を経過した今だからこそ言えることがあるのではないか。」「被災の有無や世代の枠を取り払い、オール真備であるためには？」というテーマに取り組むことに決め、そのための活動で「真備災害すごろくの作成とすごろくワークショップの実施」に至ったのは、とても柔軟な発想で興味深かったです。

予定していたマルシェでのすごろくワークは実現しませんでしたが、ヒアリングされた住民の方がみなさんと一緒にすごろくができるのを楽しみにして下さっていたり、またオンラインで矢掛高校生とのワークが盛り上がったと聞いて本当に良かったと思っています。いつか時勢が落ち着いたら是非また真備町へお越しください。

倉敷市社会福祉協議会　地域福祉課　主任　山本 知穂さん

活動で感じたこと、感想

今回私たちの班は、災害すごろくを作るという目標を作りました。その為写真洗浄の方々や矢掛高校生に対面で話を聞きたいと思い 12 月末に岡山へ行きました。災害で汚れてしまった写真をすぐに乾かし写真洗浄の方々に渡すことによって思い出は、よみがえる事を学びました。これから災害が起きた後写真を捨てるのではなく自分で乾かしてから写真洗浄の方にお渡しすると「思い出がよみがえってくるよ。」と周りの人に教える事が出来ると思いました。この活動で写真洗浄について学んだことが多かったので、周りの方に広めていこうと思います。

神戸松蔭女子学院大学　３回生　八木 沙織

熊本県人吉市での活動

活動概要

コロナ禍だけどもっとつながろう
～『つながるレター』と消しゴムハンコづくり～

私たちは人吉へ向かう日とコロナウイルス感染拡大時期が重なってしまい、当初計画していた現地活動の変更を余儀なくされました。そのため話し合った結果、半年間人吉について学んだことや人吉の方々への思い、人吉に行ったらやりたいことなどを現地で会う予定だった仮設住宅の皆さんに伝えようと思い『つながるレター』を作成することになりました。また、消しゴムハンコを得意とするメンバーを中心に仮設住宅集会所での「つながるカフェ」で使用してもらうデザインの消しゴムハンコを製作しました。この二つをまん延防止等重点措置解除後、現地で会う予定だった仮設住宅の皆さんにお送りする予定です。

山北さんとの人吉学習会

人吉市出身の熊本学園大学の山北翔大さんに活動するにあたって人吉の被害状況や災害支援金の制度や今起こっている問題について教えていただきました。

オンラインつながるカフェ

11月15日と12月20日に２か所の仮設住宅の集会場や談話室で開かれるつながるカフェにオンラインで参加しました。この活動の目的は現地に向かった時に、より打ち解けやすくなるために開催されたものです。現地の方々は、とても元気でフレンドリーで面白い話をたくさんしてくださいました。人吉で有名な焼酎やうなぎ、そば、ケーキなどのおすすめのお店や地域の皆さんの好きな場所や思い出の場所についてお話をしました。

つながるレターとはんこ

仮設住宅の皆さんへこれまで人吉市と関わってきたことをまとめて一つの冊子にします。いつか人吉市に行ってやりたいことや半年間人吉について学んだこと、人吉の方々への思い、私たち神戸の大学生の紹介などを掲載し、仮設住宅の皆さんとつながりたいと思います。また、今後つながるカフェで使用できる消しゴムはんこをオンラインつながるカフェを開催された３つの仮設にお送りします。

令和２年７月豪雨

2020年７月４日、九州地方、特に熊本県八代市で大雨による災害が発生し、熊本県で65名の死者を出しました。球磨川が氾濫し、球磨村渡地区で浸水の深さが最大９mに達しました。3368人近くが今も仮設住宅などの生活を余儀なくされています。大雨から１年半が経過し、被災者の中には再び災害が発生することへの不安や資金の逼迫などから、元の場所に家を建て直すことをためらう人もおり、町の復興は予見できません。主力観光を支えていた旅館・ホテルがほぼ半数再開できていません。多くの観光客が利用していたJR肥薩線の球磨川に架かる２本の鉄道橋が豪雨により流されたため全線の７割にあたる87キロ区間で不通のままで、復旧計画さえ立てられない状況になっています。コロナウイルスの影響により観光客が減少することでさらにダメージを受けています。これから活気を取り戻すためにも復興に力を注ぐべきだと考えました。

現地関係者からのコメント

２年連続での活動でしたがコロナ禍の状況は変わらない中、熊本チームの皆さんは熱心に取り組んでくださり、私自身のモチベーションにも繋がりました。コロナ禍の被災地支援ではいつ状況が変化するかが分からず、２手先３手先を見据えて計画をする必要があります。皆さんも実感して頂いたと思いますが、出来ない状況の中で「どうやったら出来るのか」を考えることが重要だと思っています。今年度は私自身、神戸にも二度伺うことができ良い経験となりました。活動は一旦終了ですが、過去の災害を忘れず、是非熊本にもお越しください。

熊本学園大学社福災害学生ボランティアグループ代表　山北 翔大さん

活動で感じたこと、感想

半年間コロナウイルスの影響により思うように活動が出来ずチーム一同すごく悔しい思いをしました。山北さんや様々な方々からの支えとつながるカフェの皆さんが、この活動に力を注ぐエネルギーになっていました。つながるカフェの皆さんがにこやかに話されている様子を見たり我々学生同士でたくさん試行錯誤会議を重ねたりしてきました。私は人とつながることが難しいからこそ今回の活動で様々な方とのコミュニケーションの大切さを改めて感じました。私は次にすべきことがきっと人吉で見つかると思います。そのためにも人吉にいつか伺いたいです。

神戸海星女子学院大学　1回生　小谷 有花

熊本クイズ ?

人吉市では災害時救助でたくさんのゴムボートが迅速に用意されました。それはなぜでしょう？

①お祭りにゴムボートが使用されるから
②ラフティングツアーでゴムボートが使用されるから
③川で鮎を釣るときにゴムボートが使用されるから

正解：②
人吉市ではラフティングができる施設があり迅速にゴムボートが用意されました。

KUMAMOTO

聞いて答えて ぎぶぎぶ Q&Aコーナー

ボランティア初めてだけど大丈夫？

大丈夫です！みんな初めてという子ばかりで、『思い出を作りたい！』『就活に役立てたい！』という興味から参加している子も多くいます。一人で参加しても他大学に友達ができるので心配しなくて大丈夫です！ボランティアは是非気軽に参加してください！

コロナ禍の中でどんなボランティアをするの？

オンラインで現地の方と交流したり、オンラインで参加できるイベントを企画したりします。過去には現地で行われている茶話会にオンラインで参加させていただき、絵灯籠の制作を一緒にしたり、現地の特産品を送ってもらい神戸でその特産品を使ったお菓子を作り、オンライン試食会で一緒に食べるハッピー会をしました。新型コロナウイルスの感染が収まっている時期は感染対策を徹底した状態で対面でのイベントを行っています。

ボランティアを通してどんなことが得られましたか？

まずは人の気持ちを考えて行動する力が身に付きました。このボランティアは何かを企画するところから始まります。そのため、『現地の方は何を求めているのだろう？どんな事をしてほしいのだろう？』と相手のために考える力がついたように思います。他にも、計画力や実行力、企画力、だけではなく他大学の友達を作り交友関係を広げることもできました。ボランティアでは様々な力と仲間を得ることができます。

バイトや学校で忙しいけど大丈夫？

大丈夫です！みんなバイトや学校、他の活動などで忙しい中参加をしています。毎回参加することができなくてもできる範囲で参加をすれば心配ありません。欠席した日の内容はみんなで情報共有します。ボランティアは無理せずに自分の空いている時間に気軽に参加してください！

日本財団ボランティアセンター

Q1 学生だけでは活動することが出来ません。事業の共催者であり、サポート役の日本財団ボランティアセンター（以下、日本財団ボラセン）は、いつもどんなことをしていますか？

ボランティアが学生の成長につながるように全国の大学などと連携して正規課目や講座の設置、課外活動のコーディネートを行っています。2022 年度から学生だけではなく幅広い世代に向けて事業を展開していきます。

Q2 さまざまな学生ボランティアのサポートをされていると思いますが、今までで心に残った出来事はありますか？

私がボラセンで働き始めた 2016 年秋以降、日本各地を襲った様々な災害の被災地域で学生とともに現場で活動をしてきました。被害の凄まじさとともに、思い出すのは、被災家屋の復旧をお手伝いした住民の方の表情です。最初にご挨拶をするときには固く曇った表情をされている住民の方が多く、笑顔もどこかぎこちない。学生ボランティアが活動をして、浸水して泥に浸かった畳が運び出される、床下にこびり付いた乾いた泥が取れる、庭を埋め尽くした泥が無くなっていく、台風によってなぎ倒されたビニールハウスが片付けられていく。活動を終えて最後にご挨拶をするときには、住民の方の表情がどことなく明るいものになっています。学生への感謝の言葉だけではなく、自分がこれから生活再建に向けて力強く歩んでいきたいとお話をされます。「泥を見ずに人を見る」ことが、災害ボランティアにおいて大事だと考えられています。「泥」とは災害によって変わってしまった「人」を取り巻く状況とも言えます。とすれば、災害から復旧したように見えても、「泥」は残り続けるのです。「人」に対して何が出来るのかを考えて動いていかなければならないと心に留めています。

神戸市社会福祉協議会

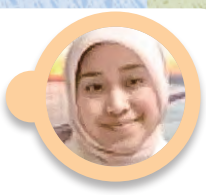
Q1 この事業でどんなサポートをしていますか？

学生さんと現地の方とをつないだり、関係機関との調整を基本的に行っています。
学生さんの「やりたい！」を叶えられるよう一緒に考えながら活動のサポートをしています。

Q2 今まで社協に勤めていて心に残った出来事はありますか？

ボランティア活動の中には「えっ、こんな活動もあるの？」と驚くようなものがあります。特に私たち社会福祉協議会は住民の日々の暮らしに関わるご相談に応じていますからその内容も様々で、面白いものでは「おじいさんの自宅で将棋相手をする」なんて活動もあったりします。
将棋をやって何のボランティアになるの？とお思いかもしれませんが、このご依頼は独り自宅で閉じこもりがちに過ごすおじいさんを心配した娘さんが「このままでは認知症や孤独死が心配」と相談されたことに始まっています。
将棋相手をするために定期的にお宅を訪問することがおじいさんの見守りになるだけでなく、昔から将棋好きだったおじいさんにとってはこのひとときが日々の生きがいにもなったようです。
一見すると意義が見えにくい活動でも、背景にまで目線を向けてみるとなるほど！と思えませんか。
個人の趣味や得意が思わぬところで、思わぬカタチで誰かの助けになるのがボランティア活動の面白いところ。
もしかすると、地域のどこかにあなたを必要としている課題が眠っているかもしれませんよ。

留学生リアルスコープ －学ボラに参加したインドネシア人留学生 ヤスミンさんのレポート－



英語

[foreigners corner/foreigner's point of view]
from this volunteer activity i learn....
1. what i think about disaster prevention in japan
2. what i think about disaster relief management in japan.
3. what differenciate disaster prevention in japan and indonesia. and what all world should learn from japan.

Japan is said to be one of the most prominent countries in the world where natural disasters, such as earthquakes and typhoons, occur frequently. I hear about this issue frequently, but the news regarding how it was handled caught my attention right away. I was amazed by how well Japan had planned things ahead of time. To lessen the impact of the disaster, the Japanese government works with the public to prepare the necessary items before the disaster occurs. People already know what to do in the event of a disaster.

They have been educated with good habits since childhood, the opportunity to be fully aware of natural disasters, involvement with disaster management drills, and an understanding of what to do in the event of a disaster. The availability of easily accessible evacuation locations, as well as reliable and timely information, makes the evacuation process easier afterward. When a calamity strikes, the government is quick to send out information and directives, so people don't have to be frightened.

Coming from a country that is equally prone to natural disasters, I felt a lot of different things after the disaster happened. I think the disaster's aftermath was far too terrible, and far too much was wasted. This, I believe, is due to a lack of public awareness, education about natural disasters, lack of planning before a disaster, and a slow response to disastrous consequences.

I believe that early education on natural disasters and how to prepare for them is important. However, it does not appear that this practice has gained traction in my country, or even in other countries. I think it's better if we imitate what Japan does with natural disasters so that we are always ready for whatever happens and minimize unwanted risks.

As a foreigner living in Japan, I also had to learn how to deal with it. Therefore, I joined this volunteer activity. I'd like to do what I can right now to help myself and others. I hope that the results we publish will provide information and motivation to the wider public, particularly young people so that they will become more aware and actively spread related information. I'm hoping that by participating in this activity, I'll be able to apply what we've learned to other parts of Indonesia.

日本語

１日本の防災について私が思うこと

日本は地震や台風などの自然災害が世界で最も多い国の一つと言われています。私は災害については頻繁に耳にしていて、地震に関する情報にもすぐに関心を持ちました。私は日本が事前にどんな準備をしているかを知って驚きました。地震の被害を減らすために日本政府は災害が起こる前に街と協力して災害に備えていました。日本人は災害が起こった時にどんな行動を取るべきかをすでに知っています。

２日本の災害対策について思うこと

日本人は幼い頃から災害について教育され、良い習慣が身に付いています。例えば、災害に関する教育や災害が起こったときにどのような行動を取るべきかなどを幼い頃からしっかりと教育されています。避難所がどこにでもあることやすぐに信頼できる情報が手に入ることはその後の避難生活をより安心させるものになります。災害が起こった時、すぐに政府が情報発信し、緊急指示が出るため、日本の災害対策は世界と比べてかなり高いと感じます。

３日本とインドネシアの防災の違い、そして世界が日本から学ぶべきこと

同じように自然災害の多い国の出身である私は災害が起こった後、様々な事を感じました。今回の災害はあまりにも酷く、多くのものが無駄になったということです。これは人々の意識の低さ、自然災害についての教育の不足や災害が起こる前の対策の不足に気がつかなかった事、そして悲惨な結果への対応の遅さが原因だと思います。

早いうちからの自然災害の教育と災害に備えることはとても大切な事です。しかし、私の国はもちろん、他の国でもこのような習慣が浸透しているとは思いません。他の国も、私の国も、日本が自然災害に対してやっている事を真似して、何が起こるかわからない災害に対して準備し、不要なリスクを減らすべきです。

４最後に…

日本に住む外国人として私は自然災害に対しての対応の仕方を学ばなければなりません。だからこそ、私はこのボランティアに参加しました。自分のためにも自分以外の人のためにも今自分ができる事をしたいと思っています。多くの人々、特に若い世代に情報が広がり、モチベーションを与え、より高い意識を持ち、関連情報が広がることを期待しています。この活動に参加することで、私たちが学んだことをインドネシアのほかの地域にも応用することができるようになればと思います。

インドネシア語

Saya sering mendengar berita tentang hal ini, namun berita tentang penanganannya pun langsung cepat terdengar. Saya sangat kagum dengan bagaimana jepang sudah mempersiapkan segalanya dari jauh-jauh hari. Untuk meminimalisir dampak yang dihasilkan, pemerintah jepang bekerjasama dengan masyarakatnya untuk mempersiapkan hal hal yang dibutuhkan sebelum bencana datang. Setelah bencana terjadipun, masyarakat sudah tau apa yang harus dilakukan.

Sejak kecil, mereka sudah ditanamkan kebiasaan yang baik sehingga memiliki awareness yang tinggi terhadap bencana alam, mereka terbiasa dengan latihan penanganan bencana, dan sudah tau apa yang harus dilakukan. Tersedianya tempat-tempat evakuasi yang mudah dijangkau, serta tersedianya informasi yang akurat dan cepat, menjadikan proses evakuasi menjadi mudah nantinya. Pemerintah juga sigap dalam memberikan pemberitahuan juga pengarahan ketika bencana terjadi, sehingga masyarakat tak perlu sangat cemas ketika bencana terjadi.

Datang dari negara yang sama rentannya terhadap bencana alam, saya merasakan banyak hal yang berbeda setelah bencana terjadi. Saya merasa dampak yang dihasilkan setelah bencana terjadi terlalu besar dan terlalu banyak yang hilang. Saya rasa ini adalah akibat dari kurangnya awareness dari masyarakat, minimnya pendidikan tentang bencana alam, kurangnya persiapan sebelum bencana, juga upaya penanganan dampak bencana yang lambat.

Saya pikir, pendidikan tentang bencana alam dan persiapannya sangat penting untuk diketahui sejak dini. Namun, praktek ini kelihatannya belum menjadi hal yang penting di negara saya, atau bahkan negara-negara lainnya. Saya pikir, ada baiknya jika kita meniru apa yang jepang lakukan terhadap bencana alam, agar kita selalu siap dengan apapun yang terjadi dan meminimalisir resiko yang tidak diinginkan.

Sebagai foreigner yang tinggal di jepang, saya juga harus belajar bagaimana cara menanggulaninya. Maka dari itu, saya join this volunteer activity. Saya ingin melakukan apa yang bisa saya lakukan sekarang, yang bermanfaat untuk saya dan orang lain. Saya harap kita bisa memberikan informasi dan inspirasi untuk masyarakat terutama anak muda, agar bisa menjadi lebih aware dan aktif menyebarkan informasi terkait melalui hasil yang akan kami hasilkan. Melalui kegiatan ini juga, saya harap saya bisa di mengaplikasikan apa yang sudah kami lakukan ke daerah-daerah di indonesia.

ボランティアしませんか？

「ボランティアをしてみたいけれど、どうすれば良いのかわからない！」
そんなあなたにぜひ紹介したいボランティアがあります。
ボランティアには様々な種類の活動があります。あなたの思いを活かせるピッタリなボランティアがあるはずです。

おたがいさまプロジェクト

当団体は、被災地での子ども支援×傾聴サロン活動と写真洗浄活動を行っている神戸の被災支援ボランティア団体です。多くの人を笑顔にしたい、自分にできることを探したいと思っている学生さん、是非私たちと一緒に活動しませんか。

KOBE 学生地域貢献スクラム

学生の皆さまが社会貢献活動に参加し、神戸が抱える様々な地域課題を認知するきっかけや地域と学生とのネットワークづくりを目的にしています。社会貢献活動をしたいけれど、参加方法が分からないという学生の皆さまでも気軽に参加いただけます。

ひょうごボランタリープラザ

阪神・淡路大震災の経験から生まれた機関で災害ボランティア活動の県域支援拠点を担うなど、災害ボランティア活動の支援を行っています。プラザHPでは災害だけでなく、様々なボランティア募集情報を提供しています。

神戸市社会福祉協議会

社会福祉協議会とは？
誰もが住み慣れた地域で安心して生活できる「まち」を目指し、住民のみなさんが取り組む福祉活動の支援や様々な地域福祉事業を展開しています。また、ボランティアセンターを運営し、ボランティアをしたい方とボランティアを求めている方とをつないでいます。

1度は行くべき！食べるべき！
〝現地の人に聞いた！〟

おすすめ！ Spot&Food

MIYAGI

いいね！：tanuki さん 他

宮城県名取市の郷土料理

#おくずかけ
宮城県仙南地域の郷土料理。野菜や豆腐、豆麩、そうめんなどを入れ、とろみをつけた汁物

#閖上たこやき
串に刺したたこ焼きを甘辛ソースにどっぷりつけた名取市民のソウルフード。中には大きく切ったたこが入っています。

OKAYAMA

いいね！：tanuki さん 他

#パンポルト
暖かい雰囲気の店内に、沢山の種類のパンがずらりと並んでいます。店先には、一風変わった自販機が！？
人気No. 1はカレーパン！

#岡山県倉敷市真備町箭田1174-1
#岡山県　絶品パン屋
https://www.pain-porte.net/

KUMAMOTO

いいね！：tanuki さん 他

#青井阿蘇神社
1200年以上の歴史を持つ青井阿蘇神社は災害時、こちらの楼門が冠水し、禊橋の損壊もありました。楼門は彫刻や彩色が華麗で門の天井には龍の絵が描かれています。

NAGANO

いいね！：tanuki さん 他

#飯島農園
王道りんごから長野県オリジナルのりんごをお届けするりんご農園です！りんごだけでなく、りんごジュースやりんごジャムもおすすめ！さらに、10月下旬～11月頃までりんご狩りの体験もできます！！

#長野県長野市飯島農園　#シナノゴールド
#シナノホッペ　#りんご狩り
https://iijimanouen-nagano.com/（飯島農園ホームページ）

【企画・制作】学生災害ボランティア・ネットワーク事業　2021年度広報チーム一同

リーダー	岡田　麻生	神戸松蔭女子学院大学　文学部
副リーダー	上北　和佳（誌面イラスト）	神戸松蔭女子学院大学　文学部
	小谷　有花（表紙デザイン）	神戸海星女子学院　現代人間学部
	茶谷　まりん	神戸女子大学　文学部
	外種子田 千寛	頌栄短期大学　保育科
	三浦　妃加利	神戸女学院大学　文学部
	森本　彩乃	頌栄短期大学　専攻科
	yassmyn khairussalima	兵庫県立大学　大学院

本紙をご覧になって、ご意見・ご感想などをぜひお聞かせください！

◆お問い合わせは…
大学コンソーシアムひょうご神戸 学生交流委員会
〒651-0072　兵庫県神戸市中央区脇浜町1丁目2－8
兵庫国際交流会館1F
【TEL】 078-271-0233 【FAX】 078-271-0244
【E-mail】 info@consortium-hyogo.jp
http://www.consortium-hyogo.jp/

デザイン・印刷：イワサキ出版印刷有限会社　〒650-0027　神戸市中央区中町通4-1-17　TEL 078-367-6556　FAX 078-367-6557